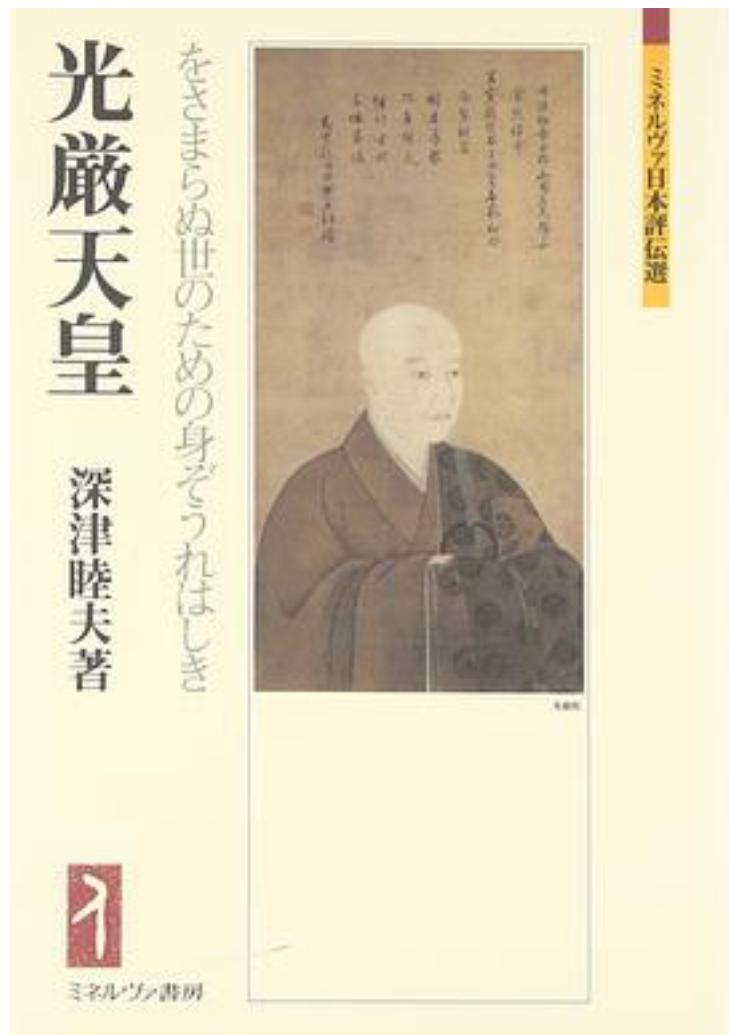


光厳天皇



[光嚴天皇_下载链接1](#)

著者:深津 睦夫

出版者:ミネルヴァ書房

出版时间:2014-2

装帧:

isbn:9784623070060

光嚴天皇（1313～1364）北朝第1代天皇。

南北朝の動乱の中で、皇統の正嫡として生まれた責任を誠実に果たそうとしながら、乱世の渦に巻き込まれて波瀾に満ちた生涯を送った光厳天皇。最後には山寺で一禅僧として静かに生を終えた一人の「人」の姿を描く。没後650年記念出版。

[ここがポイント]

- ・二度の地獄を見た光厳天皇の人生を描く。
- ・動乱の時代の為政者は、どのように責務を果たそうとしたのか。

[副題の由来]

光厳天皇自撰の『風雅和歌集』の入集歌「をさまらぬ世のための身ぞうれはしき身のための世はさもあらばあれ」の上句。この世が乱れているのは我が身の至らなさゆえではないかと、乱世における天子の責務を深く自省する歌の一節である（本書160頁参照）。

作者紹介:

目録: はしがき

第一章 両統迭立

- 1 両統迭立の経緯
- 2 持明院統の立場と治世
- 3 持明院統への評価

第二章 量仁親王の誕生と修学

- 1 「一代の主」花園天皇
- 2 持明院殿の生活
- 3 花園院の教育

第三章 春宮の時代

- 1 後醍醐天皇の登場
- 2 正中の変
- 3 量仁親王の立坊
- 4 花園院の「誠太子書」

第四章 天皇の時代

- 1 元弘の変と践祚
- 2 即位後の光厳天皇
- 3 後伏見院政
- 4 反幕府活動の活発化
- 5 六波羅滅亡
- 6 番場宿の悲劇

第五章 太上天皇の時代

- 1 廃位と太上天皇の尊号
- 2 西園寺公宗の陰謀
- 3 尊氏の叛旗
- 4 尊氏への院宣
- 5 院政の開始

第六章 治天の君の時代

- 1 南北朝の対立と後醍醐天皇の死
- 2 光嚴院の政治
- 3 皇位継承方針の決断
- 4 『風雅和歌集』の撰集

第七章 貞和五年・光嚴院の目

- 1 『風雅集』卷第十七「雜下」の巻頭部
 - 2 治天の君の述懐
 - 3 伝奏と武家
 - 4 摂関と天台座主
 - 5 もう一人の為政者
- 第八章 幽囚の時代
- 1 観応の擾乱
 - 2 尊氏の背信
 - 3 正平の一統
 - 4 南方への連行
 - 5 賀名生の幽閉生活
 - 6 天野山金剛寺の幽囚生活
- 第九章 禅僧の時代
- 1 金剛寺からの帰京
 - 2 持明院統の分裂
 - 3 後村上天皇との再会
 - 4 光嚴院の死
- 史料一覧
- 参考文献
- あとがき
- 光嚴天皇略年譜
- 人名索引
- ・・・・・ (收起)

[光嚴天皇_下载链接1](#)

标签

历史人物传记

公家史

评论

历代的天皇之中 窃以为这位是最“命运多舛”的了 18岁因为后醍醐反幕府失败
光严被拉上皇位 20岁后醍醐卷土重来光严被废 战乱中被镰仓幕府军带到近江
亲眼目睹镰仓幕府六波罗军数百人自杀的惨剧 23岁因为足利尊氏入京得以实施院政
过了一段太平日子
38岁因为“观应扰乱” “正平一统” 光严及北朝被足利尊氏背叛、抛弃
一年之后又被南朝抓走 带到南朝领地的山中软禁 之后出家为僧 得返京都
最后以一名禅僧的身份死在丹波 而不是死在京都

北朝最吸引我的地方，就是从伏見院政～光嚴院政这段期间，尤其是花園光嚴兩院的时代。南朝野心勃勃为乱天下，内部却是支离破碎，皇统二分三分，与其相比北朝始终无甚野心，甚至唯唯诺诺，极力求和，但他们十分团结，真正地维持着“天皇家”中“家”的概念。北朝保守、但绝不守旧。他们有几个独特传统，一是京极风和歌，琵琶秘曲和伏见书道等传统文艺，二是无论皇族还是近臣女房都团结一致，三是通过同居生活让下一代承接传统，四是为女性提供政治和文学舞台。整体被浓厚的传统文化滋养，也接受新兴禅宗的洗礼，同时也引领着当代和歌的变革，文学性直到近代才被承认，十分具有超前意义。另外更重要的是，在北朝的历史中能看到一种难得的人情味。光嚴院遺詔所写“松柏生於塚上，風雲時往來者，是予好賓”大概是对北朝最好的诠释了。

[光嚴天皇](#) [下载链接1](#)

书评

[光嚴天皇](#) [下载链接1](#)